

小千谷支局	0258 (83) 2320
見附支局	0258 (63) 1952
六日町支局	025 (772) 2044
十日町支局	025 (752) 3399
柏崎支局	0257 (23) 4177
小出支局	025 (792) 0416
	ファクス (792) 8539



崎崎市・枇杷島小 1年
 佐藤 愛奈
 わたしは、おおき
 くなったらアイスク
 リームやさんになり
 たいです。

クリュームがすきだからです。あ
 まくて、つめたくて、おいしい
 ので、いつも、アイスクリーム
 をたべるのが、とてもたのしみ
 です。
 みんなにも、いろいろなあじ
 のアイスクリームをたべてもら
 っ、よろこんでもらいたいで
 す。そして、おきやくさんにも
 たくさんきてほしいとおもいま
 す。

十日町南 大地の芸術祭まで1ヵ月

制作着々と 機運高まる

総数360点例年並み

伊達地区 カラムシ染めで初参加

大地の芸術祭開幕まで29日で1ヵ月。現代アートの舞台となる十日町市と津南町では、着々と作品の制作が進む。新規参加作家は約180組で約200作品に上り、通年展示の恒久作品を合わせると総数は例年並みの約360点。同市本町6の交流館キナレが現代美術館に生まれ変わるほか、JR東日本も初参加。妻有地域の100集落余りも制作に加わっており、開催機運が高まっている。

当初、数十組とされていた新規作品数は大きく膨らんだ。芸術祭を支援するNPO法人越後妻有



カラムシ染めのワークショップで、模様をつける参加者。十日町市馬場の水沢公民館

里山協働機構の関口正洋事務局長は「参加したいと手を挙げてくれる集落が多かった。これまで培ってきた作家との交流を生かした新作も多い。今回、力を入れているパフオーマンスやイベントが増えたのも一因」と語る。初めて参加する十日町市伊達地区。麻の一種カラムシをテーマにした作品を展開する。地域に伝わる財産を生かして芸術祭に参加しようとする2年前、住民有志や首都圏の大学生らが「からむし応援団」を結成した。地区内の水車小屋を改修する「からむし小屋」を拠点に、染め物のワークショップを計画。先週末には近くの水沢公民館

で、小屋に飾るカラムシについて模様を出す作業に織りのハンカチ染めに挑戦した。輪ゴムなどで絞る珠緒さん(13)は「どんな

るか分からずに作ったけど、結構良かった」と出来栄に満足そうだった。
 作品数の増加で「台所事情」は厳しい。関口事務局長は「企業の協賛や各種財団の支援、国などの補助金をお願いしている。バスポートは10万冊販売が目標」と、購入を呼び掛けている。
 問い合わせは実行委員会事務局、025(757)2637。

合併後の文化財満載

旧高柳町
 旧西山町

柏崎市は、市内全ての文し作業と合わせ、3年かける。文化財について資料や解説をまとめた。市文化振興課は「地元文化財を再認識するきっかけにしたい。他地区に合併した旧高柳町、旧西山町の文化財との違いも楽しみの文化財を新たに収めてもらえたら」として一冊を撮影してカラー化した。掲載しているのは11年度末現在の文化財で、「大泉寺観音堂(大清水)」をはじめとする国指定11件、県指定21件、市指定181件、国登録文化財11件。柏崎市は合併に伴う文化財の見直

